休み時間や放課後の時間に活用する

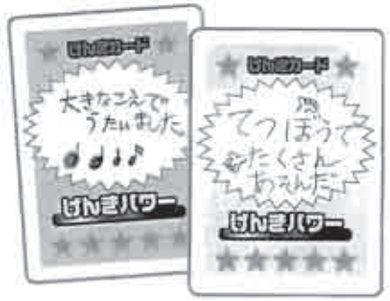
休み時間や放課後などの自由な活用で自分を見る目を広げ,深める

本場面におけるポイント

- **新たな考えを付け加える**
  これまで書いてきたものを読み返し，自分の考えを振り返ったり新たな考えを付け加えたりする。
- **読み物として楽しんで読む**
  休み時間や，放課後の時間などに，　読み物の一つとして楽しんで読む。
- **友達や他の人との交流に生かす**
  友達,上級生,身近な大人などと話題にして,心のつながりを広げる。
- **相談するときに生かす**
  困っていることや悩んでいることを相談するときに生かす。

休み時間に「心のノート」を自由に開いて書き込む

1年生のある学級では，1・2年用P.56～59「みんなみんな生きているよ」の中にある「げんきカード」が画用紙に印刷されて，教室に置いてある。「心のノート」にある2枚のカードを書き終わった子どもから「もっとたくさん作りたい」という声が出たのを受けて，教師が用意して置いたカードである。



1・2年用P.55を生かした「げんきカード」

子どもは物を集めるのが好きである。思い付いたときに書き込んで，色をきれいに塗って，「げんきパワー」をためていく子どももいる。

また，友達と一緒に思い切り遊んだ後に，1・2年用P.46～47「ともだちパワーをあつめよう」のページを広げて，友達からもらったうれしい言葉を書き込む子どももいる。教師は，より多くの子どもがそのページに書き込みたくなるように，機会を捉えて助言したい。

異学年の交流の機会に「心のノート」を生かす

ある学校では週1回「異学年集団のグループで遊ぼう」という活動を進めている。その中の一つのグループは，雨の日，高学年の子どもの呼び掛けで，「心のノート」の最後のページ「心のアルバム」（1・2年用），自由黒板（3・4年用），わたしのページ（5・6年用）をそれぞれ持って図書室に集まった。

「このページを一緒に読んでみよう」

そこで，自分の「心のノート」に書かれていることを交流する子どもたちの姿が見られた。また，低学年の子どもの中には，1・2年用P. 87「みんなでできることをさがそう」を教師に印刷してもらい，上級生に書き込んでもらう場面もあった。

「心のノート」を異学年の子どもが互いに紹介し合う機会は，子どもの「心のノート」への興味を一層高めることになる。

友達と一緒に楽しむための題材を「心のノート」から見つける

子どもが進んで生かした「心のノート」のページ

子どもたちは，「心のノート」に日常的に親しみながら，そのページの内容の中から遊びのための題材を見つけることがある。

ある学校の4年生では，次のような子どもの様子が見られた。

◇3・4年用P.98～99「季節を感じる心をみがこう!」のページに書き込む中身を見つけるために,昼休みに秋探しに行った子ども。

◇P.19「やりとげられたら金メダル」のページで,実際にがんばり抜いたときの自分に自分からあげるための金メダルを紙で作る子ども。

◇P.38「心がかよい合う「あいさつの言葉」」のクロスワードパズルを見て,他の種類の言葉で別のクロスワード作りを始めた子ども。

身近な大人に「心のノート」で自分のことを紹介する

2年生のある子どもは，毎朝，「おはよう，車に気を付けて。」と声を掛けてくれる交通安全指導員と親しくなった。

そこで，自分のことを知ってもらおうと，1・2年用P.8～9「あなたのことをおしえてね」のページを教師に印刷してもらって，自分のことを伝えていた。子どもは，「おじさんから小さかった頃のお話をしてもらった。」と喜んでいた。

1・2年用P.8～9の「あなたのことをおしえてね」

「心のノート」を子どもと教師の「交換ノート」として活用する（3年）

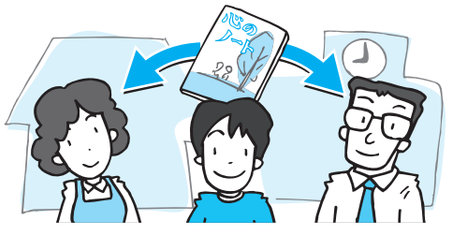
3年生のある学級では，「心のノート」の様々なページをあらかじめ印刷しておき，子どもたちが，自由に手にすることができるようにしている。また，書いたものをファイルに綴じておき，このファイルを子どもと教師の「交換ノート」として活用している。子どもは，「心のノート」のページから書きたいところを自由に選び記入する。そして，希望者は，書いたページを教師に提出する。教師は，子どもが記入したところにコメントを書いて返却する。

この取組により，教師は子どもたちの様々な考えを知る手掛かりとなり，児童理解へつなげることができるようになった。また，子どもたちにとっては，「心のノート」がより身近な存在へと変わり，自分の考えを表現する一つの手段となった。

家庭と学校の往復の中で活用する

本場面におけるポイント

- **「心のノート」の柔軟な活用を広げる**
  家庭と学校の両方で話題にしながら，「心のノート」のページに一層親しみ，柔軟に活用する。
- **関わり合う力を高める**
  それぞれの関わりを通して，コミュニケーション能力などが育まれる。
- **保護者と教師のネットワークをつなげる**
  子どもの心の成長についての保護者と教師の共通の関心となり，家庭と学校との連携に役立てることができる。



学校で話題にし「家でも話し合ってみよう」と呼び掛ける

3年生のある学級では，交流会で高齢者に様々にお世話になった日の帰りの話合いで，3・4年用P.51「わたしの「ありがとう」」をプリントアウトして配布し，詩「朝がくると」（まどみちお作）を読んだ。「この詩を読んでどんなことを感じるかな。」と投げ掛けると，子どもは，「ほかにも，自分が作ったのでもないものがたくさんある。」と言い，例えば，お店，公園，遊ぶときのボールなどを次々と挙げた。

そこで，詩を読んで感じたことを家で書いておくことを勧め，「ぜひ，家の人と一緒にこのページの詩を読んでみよう。」と呼び掛けた。その次の日，書き込んだ感想を見せてくれる子どもや，家で話し合ったことを伝えてくれる子どもがいた。例えば，家の人が左のようなことを話してくれたと伝えてくれた。

「心のファイル」を作って家庭と学校をつなぐ

5年生のある学級では，子どもが持ち帰ったページをファイリングしていくためのファイル（8ツ切色画用紙を二つ折りにしたもの）を作った。子どもは，それを「心のファイル」と呼んで，家に持ち帰るときや，学校に持ってくるときに活用している。

例えば，勤労感謝の日の前日の帰りの会で，5・6年用P.92～93「働くってどういうこと？」のページを配布して「家の人はなぜ働いているのかな。」と問い掛けた。

すると子どもたちは，次のように思い思いの意見を出した。「家族が生活するため。」，「お金をためて何かを買うため。」

そこで，担任が「お金も大事だけれど，それだけでしょうか？『勤労感謝の日』に家の人と『働く』ということについて話し合ってみましょう。」と投げ掛けた。

祝日明けは，家の人から聞き取った「働く」ことの意義について，楽しそうに交流していた。

家庭と学校の間での心のキャッチボール

「心のノート」を使って保護者の思いを集め，学級通信を作る

4年生のある学級では，総合的な学習の時間の「1/2成人式」とからめて3・4年生用P.80～81「わたしの成長を温かく見守り続けてくれる人…家族」のページを配布し，話し合った。その後，「学級通信作りに協力してほしい」と呼び掛け，保護者にP.83のページへの書き込みをお願いした。

担任は，集めたページを整理し，学級通信で「保護者の声」として紹介し，担任の思いもあわせて掲載した。

「1/2成人式」保護者からのメッセージ

○元気に大きくなったね。
○もうお母さんの背を抜きそうです。
○いろんな思い出ができましたね。
○あっという間の10年でした。
○これからも健康でいてね。
○かっこいい大人になってね。

みんな立派な1/2成人に成長しました。
次は10年後，楽しみですね！

「心のノート」の感想を保護者会で交流する

ある3年生の学級では，保護者会の場で，子どもが持ち帰って保護者とともに書き込んだP.96～P.97「こんなことをしたらわたしははずかしい」についての感想を出し合っていただいた。

その際，保護者会のテーマや話し合ってもらいたい内容に応じて「心のノート」のページを拡大して黒板に貼り，書き込んだ内容や子どもと語り合った内容を基に，話合いを進めた。左のページで紹介した「心のファイル」を活用している場合は，保護者一人一人が自分の子どものファイルを見ながら進めると効果的である。

3・4年用P.96～97

保護者会で出てきた声

- ◇子どもと一緒に話し合う機会になりました。
- ◇そのきまりは，私も書きこみました。同じですね。
- ◇新たに加えたいきまりがありました。早速話をします。
- ◇一度決めたきまりは，家族みんなで徹底することが大切。

留意点　子どもには，それぞれ様々な個別の事情がある。そのことへの配慮を欠かさないようにすることが大切である。